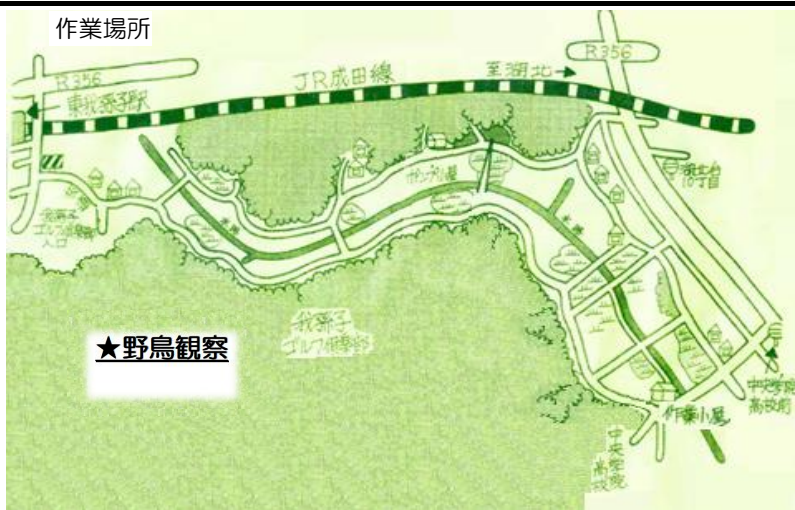


谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月6日（土）

作業場所



★野鳥観察

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

晴 曇 雨 21℃

参加者 会 員

参加者

合計 13 名

- ▼田植が終わり、田の草取りが始まる。6/10は湖北台西小、6/13は市民公募。水路への階段、駐車場確保のため小屋の対岸散歩道の草刈、草集めをする。
- ▼ヒルガオ、コヒルガオが咲いていた。違いはいろいろあるが、葉の形で見分けることができる。
コヒルガオ：葉の基部、横に張り出す耳が大きくて、2つに裂けている。
ヒルガオは：横に張り出す耳は小さく、裂けはない。
- ▼コモチマンネングサは、小さな黄色い星のような形の花。初夏に咲く。
- ▼イチョウウキゴケ、小屋裏田んぼにアオウキクサに混じって生えている。環境省では準絶滅危惧(NT)、千葉県では一般保護生物、レッドデータブックの希少種。最近、少なくなっているため、大事にしましょう。

今日の作業

- ①草刈り、草集め（小屋周辺歩行路、階段周辺、三角田んぼ畔）
- ②枝木の剪定（歩行路脇）
- ③冬水田んぼピオトープの管理作業
- ④畑 作 業：里山上のサツマイモ畑の草とり
- ⑤ナガ工除去（小屋裏）

次回の予定

- ①湖北台西小の田んぼ草とりの補助

作業小屋前、多自然型水路左岸の散歩道の草刈、刈草集め



ヒルガオ(左) と コヒルガオ(右)
葉の形で見分ける
ヒルガオ：張り出す耳が小さい
コヒルガオ：耳が横に張り出す



コモチマンネングサは星形の花、初夏に咲く



ササグモ
脚に棘がある



脚が生え尻尾も取れたヌマガエルの幼体



イチョウウキゴケ
環境省：準絶滅危惧（NT）
千葉県：一般保護生物



谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月10日（水）

作業場所



★野鳥観察

トビ、セグロセキレイ、ムクドリ、ヒヨドリ
シジュウカラ、ダイサギ、オオヨシキリ
ハシブトガラス、ウグイス、クイナ？（鳴声）

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

晴 曇 雨 23 ℃

参加者 会 員

手賀沼課

湖北台 西小

参加者

合計 約 45 名

▼田植から1ヶ月たち、湖北台西小の子供たちの田の草取り。稲刈りの時には厄介なヒレタゴボウはまだ目立たないが、イボクサやタガラシなどを抜く。
▼ドクダミは中央の黄色い筒が花で、花びらのように見える白い部分は、葉が変化した総苞(そうほう)。普通、白い総苞は4枚だが、総苞が3枚、5枚のドクダミを見つけた。3年前には6枚の花もあった。5枚のドクダミは「ラッキードクダミ」と呼ばれているらしい。ドクダミの花は、ハケノ道の右岸に良く咲いている。散歩しながら、探してみてください。

次回の予定

- ①市民公募 田んぼ草取りの補助
- ②畑作業
- ③その他 草刈り、ナガエ駆除など

今日の作業

- ①湖北台西小の田んぼ草取りの補助 + 補植
- ②畔の草刈：四分田んぼ
- ③ピオトープの管理作業：冬水田んぼ
- ③ワルナスビ駆除：ハンノキ通り
- ④ナガエの駆除：小屋裏田

作業前の説明



田の草取り開始



初めて5枚のドクダミを見つけたのは6年前。以後観察すると3枚も、6枚も見つけた。普通、白い花びらは4枚だが、特に5枚、6枚のドクダミは、四葉のクローバーのようにラッキードクダミと呼ばれている。3枚のものは4枚目が、黄色い筒に密着しているのが多い。下の写真の3枚のものは4枚目が無く、3枚そのものようだった。

3枚



通常の4枚



5枚



6枚



アカバナユウゲショウ：アカバナ科
花弁の赤い筋が目立つ



コメツブツメクサ：マメ科
シロツメクサの仲間



ツチイナゴ：バッタの仲間
成虫で冬を越す



谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月13日（土）

作業場所

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

晴 曇 雨 24℃

参加者

参加者

合計 49名

▼今日立つ田んぼの雑草は、イボクサ、コナギやオモダカの仲間たちもまだ花は咲いていない。
8月になるとコナギは青紫の花、イボクサは花の先が淡いピンクの白い花。
▼オモダカの仲間は3種類。葉が矢じり型で大きな白い花はオモダカ、へら型の小さな白い花はへらオモダカ。サジオモダカの葉はスプーン型の小さい白い花。花を見つけたら、まとめて紹介したいと思う。

今日の作業

- ①市民公募：田んぼ草とりの補助＜三角田、四分分割田＞
草刈り、ナガ工除去など
- ②畑作業：ジャガイモ掘り、収穫

次回の予定

- ①田の草取り

田の草取り＜三角田んぼ＞

田んぼの中の雑草

サジオモダカ
葉の形がスプーン型

コナギ

へらオモダカ
葉はへら形

イボクサ
葉は細長く先端が尖る

オモダカ
葉が矢じり型

谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月17日（水）

作業場所

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

（晴）（曇）雨 28℃

参加者 会 員

参加者

合計 8 名

★野鳥観察

- ▼2羽の野鳥が車の通行を気にしながら通学路を横断。ヒクイナの幼鳥と思われる。まだ警戒心が薄いようで何度も横断しようとする。下流の田んぼで餌探しのようだ。ピントがあってないが、写真2枚撮影。
- ▼他に野鳥では、カルガモ4羽、アオサギ、ダイサギが飛ぶのを観察。10丁目の電柱の上にサシバが留まっていた。
- ▼シオカラトンボが水面を叩きながら産卵している。オオシオカラトンボの顔は真っ黒。黒地に白のV模様のホタルガがでてきた。夏は昆虫たちの季節。
- ▼ネムノキの花が咲きだした。虹のような淡いピンクの花は6～7月が見頃です。

今日の作業

- ①田んぼ作業：田の草取り、補植 <三角田んぼ> ナガエを除去しながら
- ②散策路整備：草刈り、ワルナスビの除去
- ③畑 作 業：草取り <新サトイモ畑>
- ④水路の草刈：マコモ刈り <多自然型水路>

次回の予定

- ①田んぼ作業：田の草取り<三角田西側>
- ②ハケノ道の草刈：800番沿いの歩行路

淡いピンク色のネムノキの花が咲きだした

翅に白いVの字が目立つ
ホタルガ



中央学院への通学路を横断する
ヒクイナの幼鳥
千葉県では最重要保護生物です



シオカラトンボ
顔は薄い水色



オオシオカラトンボ
顔は真っ黒

谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月20日（土）

作業場所



★野鳥観察

チュウサギ：2 アオサギ ウグイス

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

晴 曇 雨 26℃

参加者

合計 11名

- ▼谷津ミュージアムの夏は昆虫たちの季節。7月になるとたくさんの市民がホタルを見に集まる。歩行の妨げにならないよう散策路の草刈りをする。
- ▼800番の池の奥の広場に、オオスズメバチが登場。これからの作業は、スズメバチを怒らせないよう作業にも注意が必要。ポンプ小屋にはシグザグ状の白いXの文字、立派なコガネグモの隠れ帯があった。
- ▼顔や形、張った網をかぶったりして、クモ類を嫌いという人は多いが、ゴキブリやダニ、ハエや蚊などを食べてくれるため、人にとっては益虫。あまり嫌わないで下さい。お釈迦様の使いだという説もあるらしい。

今日の作業

- ①ホタルアカガエルの里、散策路の草刈・草集め
- ②畑作業：草取り
- ③田んぼ作業：田の草取り<三角田んぼ>

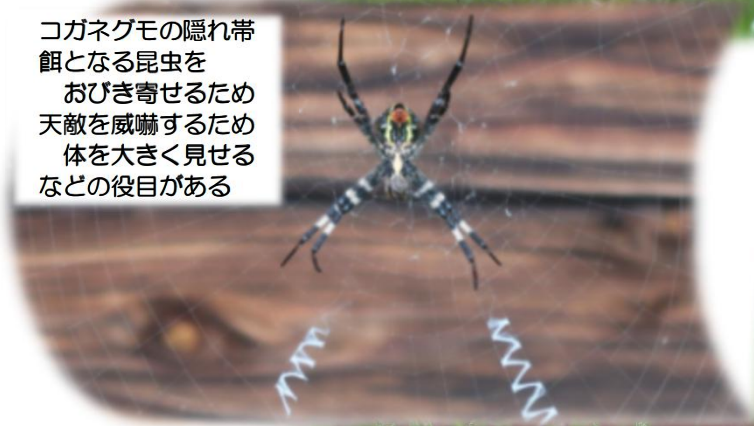
次回の予定

- ①散策路の草刈・草集め など

ホタルアカガエルの里 散策路の草刈・草集め



コガネグモの隠れ帯
餌となる昆虫を
おびき寄せるため
天敵を威嚇するため
体を大きく見せる
などの役目がある



チダケサシ：乳苳刺
長く伸びた花茎に
乳苳というキノコを
刺したのが名の由来



谷津ミュージアム 作業日誌

2026年6月24日（水）

作業場所

作業時間

9:00-11:00

天候・気温

晴 曇 雨 26℃

参加者

合計 8名

★野鳥観察

- ▼ニホンアカガエルは千葉県では、最重要保護生物。我孫子市では、ヘイケボタルと共に環境指標生物に指定されている。目の後ろに褐色の帯模様がある。オスよりもメスが一回り大きい。
- ▼エゴノキにオトシブミのが揺籃(ゆりかご)があった。筒状に丸まった葉の形が、巻物上の手紙「落とし文」に似ていることから名づけられたとのこと。葉の中に産み付けられた卵が、葉を食べながら成長してサナギになる。クリやクヌギ、エゴの葉などで作らしい。
- ▼カノコガ、ハチに擬態しているが、ハチのように刺すこともなく、毒もない。翅が「鹿の子模様」のために名づけられた。キハダカノコという仲間がいる。

今日の作業

- ①畑作業：サトイモ畑の草取り<共同畑>
カボチャの植付け<里山畑>
- ②草刈り：共同畑の前の梅林
- ③マコモ刈り：作業小屋前の田んぼ広場池

次回の予定

- ①畑作業
 - ②草刈り など
- 次回<6/27> 田の草取りは
中干しにて次週<7/4>に延期

畑の草取り



ヒメジョオンで吸蜜中
カノコガ



草刈後の梅林
刈草片付けの最中に見つけた
ニホンアカガエル



オオシロカネグモ

ナミテントウ 二紋型



オトシブミ
木の葉を丸めて筒状のゆりかごを作る



テングタケの仲間 毒キノコ
触らずに目で楽しんでください



ホオズキカメムシ
ナスやホオズキ、
ヒルガオなどが被害を受ける